

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 15 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/15 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	30.7	105.8 kPa abs	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.04 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	40.9	8.63 kPa g	A系： 0.06 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.06 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.5 m ³ /h	40.2	0.22 kPa g	A系： 0.10 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.09 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

・H25/10/11 11:15 頃 湯気をカメラにて確認できないことを確認。(気象データ[10/11 11:00 時点]): 気温 24.0℃、湿度 90.2%)
※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/15 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	24.5
2号機	循環冷却システム	運転中	21.6
3号機	循環冷却システム	運転中	20.6
4号機	循環冷却システム	運転中	29.0

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

・H25/10/15～10/16 4号機使用済燃料プール内にある炉内機器を原子炉圧力容器底部へ移動するため、使用済燃料プールゲートを開く予定。本作業に伴い、使用済燃料プール代替冷却システムを停止予定。停止期間中のプール水温度の上昇率は約 0.32℃/h と評価しており、停止期間中のプール水温度上昇率評価値は、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上問題ない。

10/15 17:02～ 4号機使用済燃料プール代替冷却系について、4号機使用済燃料プールの原子炉ウェル側プールゲート開放作業に伴い停止。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 29.0℃。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	10/10 10:20 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	10/4 10:26 ~ 移送実施中

7/16 13:00～ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエアータンクへ移送を開始。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/15 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/8/8 12:55～ 6/15に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月下旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

<5. その他>

- ・H25/10/7 11:10 頃 3号機原子炉建屋がれき撤去作業に従事していた協力企業作業員が、瓦礫処理用ジブクレーン(600トン)交換修理中に、クレーンと治具の間に右手人差し指を挟まれ負傷。入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると判断したため、同日12:23に救急車を要請。同日12:54に急患移送車にて福島第一原子力発電所から富岡消防署(救急車待機場所)に搬送。なお、当該作業員に身体汚染はない。その後、いわき市立総合磐城共立病院にて「右示指末節骨開放骨折」と診断。
- ・H25/10/9 2号機の取水口スクリーンのシルトフェンス内側および外側において、セシウム134およびセシウム137の値が、10/8の分析結果と比較して有意な上昇傾向を確認。
今回の上昇は1, 2号機取水口付近止水対策工事の影響による可能性が考えられるが、これを受けて10/11から1週間を目途に、港湾内5地点(物揚場前、1～4号取水口内北側(東波除堤北側)、2号機スクリーン(シルトフェンス内側)、2, 3号機取水口間、港湾口)のサンプリング頻度を上げてモニタリングを強化。
なお、10/9と10/10採取の2号機スクリーンシルトフェンス内側についての全ベータとトリチウムの分析結果は以下のとおり。
<2号機スクリーンシルトフェンス内側の測定結果:10/9 採取分>
・全ベータ :1,700 Bq/L ・トリチウム :1,900 Bq/L
<2号機スクリーンシルトフェンス内側の測定結果:10/10 採取分>
・全ベータ :1,300 Bq/L ・トリチウム :1,500 Bq/L
10/11～14採取分の5地点の海水のセシウム134、セシウム137、全ベータの測定結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。また、10/10～13に採取した海水のトリチウムの分析結果についても、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- ・H25/10/11 19:00 頃 固体廃棄物貯蔵設備入口において、取水口付近の地盤改良工事に伴い発生した残土と瓦礫を収納したコンテナを運搬中に、コンテナから水が滴下したことを協力企業作業員が確認。滴下した水跡について、表面線量当量率、スマヤ法による表面汚染密度を測定した結果、いずれもバックグラウンドと同等であることが確認できたため、滴下した水はコンテナ上部にたまった雨水が、運搬時の振動により地面にこぼれたものと判断。
- ・H25/10/11 3号機原子炉建屋上部のガレキ撤去については、H23/9/10より作業に着手していたが、オペレーティングフロア上部の大型がれき撤去が完了。
- H25/10/15 3号機原子炉建屋上部の燃料取り出し用カバーおよび燃料取扱設備設置のため、線量低減対策(除染および遮へい)を開始。
- ・H25/10/13 7:01 6号機残留熱除去系については、現在、原子炉冷却のため原子炉停止時冷却モード(B系)にて運転中であるが、原子炉の開放作業に伴い、本モードによる運転を停止(停止時原子炉水温度:26.7℃)。その後、原子炉停止時冷却モードの停止が必要となる同作業が終了したことから、同日10:41、原子炉停止時冷却モード(B系)を起動。起動後の運転状態に異常がないことを確認。停止中の原子炉水温は約26.8℃で運転上の制限値65℃に対して十分余裕があり、原子炉水温度管理上問題ない。
- ・H25/10/14 H25/6/26より実施していた、共用プールに貯蔵されている燃料を、新設の乾式貯蔵キャスク(全11基)に装填し、キャスク仮保管設備へ順次輸送する作業が終了。

【H4エリアタンク・B南エリアからの水の漏えい関連】

<トピックス>

- ・10/6 H4エリアIグループNo.5タンクの側板1段目の解体を実施。
- ・10/7 H4エリアIグループNo.5タンクの底板部の解体を実施。

<パトロール実績(10/11)>

- ・10/10 に確認されたH3-A-No.1タンクの高線量当量率箇所(β+γ線(70μm線量当量率))については、

10/11のパトロールにおいて確認されませんでした。同タンクの別の箇所新たに高線量当量率箇所を確認。当該タンクの目視点検の結果から、漏えいは確認されていない。

・H3-A-No. 1タンク(南側)

(50cm距離※1) 70 μ m線量当量率(ガンマ線+ベータ線) 14.0mSv/h

(5cm距離※2) 70 μ m線量当量率(ベータ線) 34.75mSv/h

1cm線量当量率(ガンマ線) 0.25mSv/h

※1:床面から50cm、タンク側面から100cm離れた位置

※2:高線量率箇所から5cm離れた位置

・10/10に確認されたH3-A-No. 2タンク(北側)、H3-B-No. 6タンク(東側)の高線量当量率箇所については、10/11のパトロールにおいては確認されなかった。

・その他高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。

・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<パトロール実績(10/12)>

・10/10に高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))が確認されたH3-B-No. 6タンク(東側)およびH3-A-No. 2タンク(北側)、H3-A-No. 1タンク(南側)、また、10/11に高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))が確認されたH3-A-No. 1タンク(南側)の10/10に高線量が確認された箇所とは別の箇所(計4箇所)については、本来、床面から50cm、タンク側面から100cm離れた位置で測定すべきところを、タンク廻りに設置されている足場等を避けて測定していたため、本来の測定距離よりもタンクに近い箇所で測定を行っていたことが判明。そこで、10/12、本来の測定距離で測定しているが、70 μ m線量当量率測定結果では高線量当量率箇所は確認されていない。

・その他高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。

・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<最新のパトロール実績(10/13・14)>

・高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。

・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・今回、新たに分析したH4エリア周辺観測孔(E-7)の10/9採取分の分析結果について、全ベータは検出限界値未満(検出限界値:19Bq/L)で、トリチウムは840Bq/Lであることを確認。なお、H4エリア周辺のその他の観測孔の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・10/13採取分のタンク脇側溝(X-2地点)における分析結果が、セシウム134が1000Bq/L、セシウム137が2300Bq/Lと前日(10/12)に比べて高い値を検出。同地点の下流採取点(タンク脇側溝(C排水路の合流点前)(X-1))の分析結果は、前回(10/12)と比較して有意な変動はない。サンプリングの際に底部の堆積物を採取した恐れがあるため、同日、再分析を行ったところ、セシウム134が83Bq/L、セシウム137が220Bq/Lと過去の変動の範囲内であることを確認。また、全ベータ値についても、有意な変動は確認されなかった。

このことから、サンプリングの際に底部の堆積物を巻き上げたことが影響したものと考えられる。

・10/14採取分のH4エリア周辺のB排水路のB-1、B-2、B-3地点については、排水路に水がなくサンプリングができなかった。なお、排水路におけるその他の地点の分析結果については、大きな変動は確認されていない。また、H4エリア周辺のその他の地点の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は10/15 0:00時点で約3,181m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)

・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1の汚染範囲調査開始。

以上